



## ふるさと学習 コンクール最優秀

12月18日、牧島小学校の児童が『第7回佐賀県児童生徒ふるさと学習コンクール』小学生（4～6年）の部で最優秀賞を受賞し、そのことを報告するため、深浦弘信市長を訪問しました。

このコンクールは、ふるさと佐賀に対し誇りと愛着を持つ児童生徒の育成を図ろうと県が開催しているもので、今回、牧島小学校6年生の児童8人が、カブトガニをテーマに授業や自由研究などで学習してまとめた作品『わたしたちとハチガメ』が一番高い評価を受けました。



↑この日、児童たちは受賞した作品をもとに、深浦市長の前で電子黒板を使いながら発表をしました

## うちどく 推進講演会

12月10日、毎年恒例となっているうちどく推進講演会が市民図書館で開催されました。

今回は、食育絵本の出版社『おむすび舎』の代表を務める霜取英梨さんが『絵本が生まれる現場』をテーマに講演を行い、食の大切さや絵本作りの裏話などの話に、参加者たちは熱心に聞き入っていました。

また、講演会の前には『市における子どもの読書活動の推進状況』が報告されたほか、午前中は、うちどくイベントとして、食育ワークショップ『みんなで作ろう!!おにぎりおにぎり』が大坪コミュニティセンターで開催され、参加した家族が思い思いにおにぎりを作りました。



↑絵本の読み語りを行う霜取さん

## 脱炭素を考える ワークショップ

12月8・9日、『市の脱炭素に向けた今後を考えるワークショップ』が開催されました。

これは、地球温暖化対策として、脱炭素社会の実現に向けて、市内で発生する温室効果ガスを減らすための目標や取り組みを定める『伊万里市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）』を策定するにあたり、市民の意見を反映させたこと開催されたものです。

ワークショップには、高校生から大人まで56人が参加し『伊万里市の課題を脱炭素で解決しよう!』をテーマにグループワークを行い、地球温暖化に対する考えやふだんの行動、日頃感じている課題、その解決方法などを真剣に考え、話し合っていました。



↑現状や課題、解決方法などを付箋紙に書き出して話し合いました

## 郷土の文化財

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎22-1262

### 史跡大川内鍋島窯跡調査事業

はっぱうしやしたかまろ  
〜日峯社下窯跡の調査成果⑩〜

出土した初期鍋島の製品について紹介します。

写真の皿は、意匠（デザイン）が盗用されないように細かく割られていた破片を接合したものです。

皿の縁の部分は唐花と唐草の文様が立体的に浮き出ている、この文様に沿って縁が形作られています。これは『型打ち成形』と呼ばれるもので、□の口で皿を成形したあと、粘土が柔らかいうちに皿全体を型に押し

し当て、浮き出た部分を作り、さらにこの型からはみ出た部分を切り取ることで、皿の縁が文様に沿った形に整形されます。

内面の文様の全体像はよくわかりませんが、松の木と人物が非常に繊細な細い線で描かれていて、このことは、陶工の技術力の高さを示しています。いまのところ、この皿と同じ絵柄の伝世品は見つかっていません。

